

ふくらはぎ周りの サイズの変化



対象

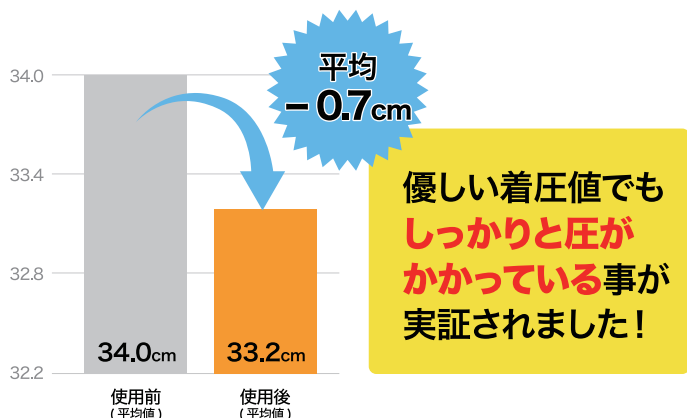
女性9名(平均年齢77.2歳)

測定項目

商品着脱前後のふくらはぎ周りのサイズの変化

※調査監修 高齢者運動器疾患研究所 石橋英明先生

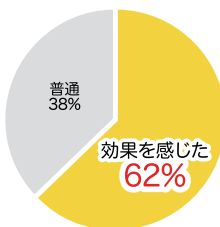
＼ 着圧の効果 によりサイズが変化！ ／



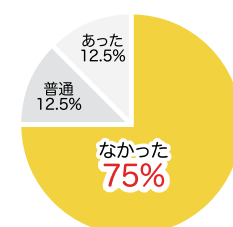
＼ 6割以上の方が 良い効果 を実感！ ／

測定後のアンケート

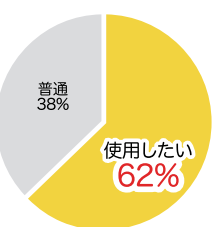
Q むくみ軽減の効果を
感じましたか？



Q 着脱や装着中に不快な
部分がありましたか？



Q 今後も継続して
使用したいですか？



ご利用者様から

嬉しいお声

いただいています。



外出から帰宅したとき(概ね8時間ほど)足のむくみがかなり改善されていた。普段なら結構パンパンにむくんでいるが、それが起こっていなかった。

目に見える大きな違いはないが、むくみがいつもより少ないように感じた。

歩行が着用なしに比べるとスムーズに感じる。脚が温かく冷えにくい感じがする。

夕方になると足がパンパンに腫れるが、靴下着用時はあまり腫れなかった。

靴下の色は肌色に近いので気にならず、TPOを問わずに使用できるのがよい。

履くと歩きやすかったので疲れにくく、むくみが少なかったように思う。

夜間頻尿 でお悩みの方に朗報！

夜間頻尿の大きな原因のひとつが、日中に摂取した水分がふくらはぎにたまってしまったためだとわかってきたのです！

2020年4月発表の「夜間頻尿ガイドライン」では副作用の少ない治療法のひとつとして着圧ソックスが推奨されています！

出典：日本排尿機能学会／日本泌尿器科学会



整形外科専門医の監修のもと、開発を行っています。

骨粗鬆症・ロコモティブシンドロームの研究と啓発を推進する整形外科医、石橋英明先生の監修により、医学的根拠をもとに開発を行い、運動機能測定調査を実施した上で、中高年者の歩行サポートツールとして安全な設計を行っています。

監修者 石橋英明

医療法人社団愛友会 伊奈病院 副院長／整形外科部長
特定非営利活動法人 高齢者運動器疾患研究所代表理事

1988年東京大学医学部卒業。東大病院整形外科、三井記念病院整形外科勤務などを経て、1996年東京大学大学院にて学位(医学博士)取得。以後、米国セントルイス市ワシントン大学に留学、1999年より東京都健康長寿医療センター整形外科、2001年同医長、2004年より伊奈病院整形外科部長。2005年に高齢者運動器疾患研究所を設立。骨粗鬆症、人工関節手術などを専門とする整形外科医で、同時にロコモや骨粗鬆症に関する講演を全国で行い、テレビ、雑誌、オンラインメディアなどでも、知識の啓発を多数行っている。日本骨粗鬆症学会評議員、骨粗鬆症財団理事、日本整形外科学会専門医。